

委員会町内視察レポート

総務文教常任委員会町内視察

【視察実施日】

令和元年7月17日

【調査の結果・意見】

○川辺西小学校

五年生外国語活動、学校図書館見学

37名の児童に対し、英語免許所有の教諭、ALT、アシスタントの3氏による、デジタル教科書を用いた授業が実施され、手狭な教室がより狭く感じられるほど熱気と活気に満ちた授業であった。参観させて頂いた授業は、アルファベットの発音練習のカリキュラムであった。教諭は授業中自身が英語で話すよう心がけており、またALTは、教材とは別に、独自の工夫を取り入れたゲーム形式の発音練習を行うなど、子どもた

ちの学習意欲を高める工夫がなされていた。児童全体への配慮も、適切にされていた。図書室は子どもたちの高さに合わせてカウンタも低く、広く開放的になっている。

○山野小学校

学校図書館見学、六年生プログラミング学習

六年生6名が2人ずつのペアで、ロボットキット「スタディーノ」とパソコンを接続しての授業であった。安全・安心・便利



な社会のために、即ち住みよい社会をコンセプトに、自動ドアのプログラムを組んで、実際にロボットを動作させて行く、足りない部分を考えて行く、というものであった。担当教諭と校長の2名で行われ、子どもたちに考えさせて、論理的な思考を育んで行こう、とするものであった。

日頃接する機会が昔に比べて多いせいか、パソコンに対する抵抗がなく授業に入っており、使い慣れている。

○川原河小学校

読書タイム 学校図書館見学 六年生外国語活動

読書タイムを設けて、子どもたちに読書の楽しみをわかってもらおう取り組みをされているなかで、参観させて頂いたのは全校児童での読み聞かせであった。代表の発表者2名が読み聞かせを行った後、感想や質問を受け付けていた。

外国語活動では教諭が、ALTとともに、職業を英語で表す授業を行った。連想ゲーム形式で、クイズの進行要素を取り入れるなど、子どもたちが興味を持つように、授業に工夫が凝らされていた。丁寧な授業の進め方が印象的で、ALTは発音を示すなど役割が分担され、単語を覚えることを主眼とした授業であった。

2名という少人数クラスでの授業であり、教える側と子どもたちの距離感がなく、自身の濃い授業であった。外国語活動に関して、教諭については英語の読解力、ALTについては日本語の理解度が、重要な課題だと言える。

専科制度を設けない中では、教諭の研修・啓発をサポートして行く体制づくりが欠かせないと思う。これはALTの日本語理解に関しても同じことが言える。得ることから、今後需要が高まる中で資質あるALTの確保についても、任期満了前に慌てるのではなく、日頃からしっかりと対応しておく必要がある。

執行部からの語学研修会の提案や、語学講座の一部補助制度の創設を検討すべきではないか。また、少人数校の外

また、少人数校の外

産建厚生常任委員会町内視察

【視察実施日】

令和元年8月30日

【調査の結果・意見】

○入野浄水場

平成28年に完成した入野浄水場は、川辺地域のほとんどの家庭に水を供給している。紫外線処理装置の導入により耐塩素性病原性微生物を99.9パーセント不活化させることが可能で、安全で安心な水道水を製造している。施設の建物は堅牢

で、日高川が氾濫した

場合を想定し、電気設備等を2階に設置しており、災害に強い施設となっている。

住民の皆様にも、こういった施設があるというのと我が町の水の良さをもっと理解してもらおうことができないかと感じた。

これからも町民の飲料水の安全な供給に向け、施設管理をお願いしたい。

○介護老人保健施設「和佐の里」

社会医療法人黎明会が運営する介護老人保健施設「和佐の里」で、地域包括ケアシステムの一環として薬草試験場跡地に整備予定の事業について概要説明を受けた。

黎明会のプロジェクト案として、介護を要する高齢者が住み慣れた地域でいつまでも在

宅生活が送れるよう、支援するために4事業、3支援を予定している。現在、和佐の里で設置している支援センターや通所リハビリテーションの設置に加え、訪問リハビリテーションやサテライト型入所サービス（20床、29床）を予定している。

また、サロン等への支援事業や施設での「集まる場」の提供と「健康支援及び介護予防事業」の展開、在宅支援診療所の立ち上げ案を地域医師会と調整し、看取りの推進を検討予定とのことである。

今後、地域包括ケアシステムの構築に向け、地域の実情や特性に合ったサービス等の展開に期待したい。

○美山支所庁舎新築工事

美山支所庁舎新築工事現場において、施工業者より説明を受けた。

現在の基礎工事の地盤改良中であり、議会から指摘した箇所についても設計変更されていた。

工期は、令和2年3月20日で、効率的な建物が完成し地域に愛される支所にしてもらいたい。

熊野川下村地区では、「ごんちゃん漬」の原材料であるイタドリを安定的に確保するために、休耕田を活用して栽培に取り組んでいる。1反7畝の園地で、約1300株の植え付けをしている。獣害防止策も設置していた。生産が軌道にのれば採集する労力が省け、取り組み会員も拡大できるかと感じた。

今後の収穫に期待し、「ごんちゃん漬」のさらなる消費拡大に繋がることを願いたい。

国語活動では、教える側、子どもたちともに、実践や反応がパターン化し易いので、この点、子どもたちが多様なコミュニケーション力をつけられるような配慮が必要であろう。プログラミング教育に関しては、教える側より、子どもたちの方がパソコンに慣れ親しんでいるのは、という実態があり、外国語活動に比して、現場の教える方が戸惑うのではないかと。高校へと続いて行くプログラミング教育において、小学校ではまず慣れ親しむ初級編であり、次のステップに進んでいくにあたり、どのように「興味」を抱かせ続けられるよう、定着させて行く事が課題だと言える。

また今回の参観は少人数での授業であったが、人数の多い学校ではプログラミング授業をサポートするスタッフも必要になるのではと考える。川原河小学校の読書に関する取り組みに感銘を受けた。自分の考えをしつかりと人に伝えられる能力、人の意見を受け入れる能力、読書の楽しさを他の人に伝えられる能力、等々社会的素養の涵養に役立つであろう。その他、何れの学校図書室においても、日本十進分類法に基づいた分類で図書が整理されており、子どもたちが探しやすいものとなっている。引き解する。引き続き読書の充実を期待したい。



介護老人保健施設

意見書を採決し、政府の関係機関へ送付しました。

新たな過疎対策法の制定に関する意見書

過疎対策については、昭和45年に「過疎地域対策緊急措置法」制定以来、4次にわたる特別措置法の制定により、総合的な過疎対策事業が実施され、過疎地域における生活環境の整備や産業の振興など一定の成果を上げたところである。

しかしながら、依然として多くの集落が消滅の危機に瀕し、また、森林管理の放置による森林の荒廃や度重なる豪雨・地震等の発生による林地崩壊、河川の氾濫など、極めて深刻な状況に直面している。

過疎地域は、我が国の国土の過半を占め、豊かな自然や歴史・文化を有するふるさとの地域であり、都市に対する食料・水・エネルギーの供給、国土・自然環境の保全、いやしの場の提供、災害の防止、森林による地球温暖化の防止などに多大な貢献をしている。

過疎地域が果たしているこのような多面的・公益的機能は国民共有の財産であり、それは過疎地域の住民によって支えられてきたものである。

現行の「過疎地域自立促進特別措置法」は令和3年3月末をもって失効することとなるが、過疎地域が果たしている多面的・公共的機能を今後も維持していくためには、引き続き、過疎地域に対して総合的かつ積極的な支援を充実・強化し、住民の暮らしを支えていく政策を確立・推進することが重要である。

過疎地域が、そこに住み続ける住民にとって安心・安全に暮らせる地域として健全に維持されることは、同時に、都市をも含めた国民全体の安心・安全な生活に寄与するものであることから、引き続き総合的な過疎対策を充実強化させることが必要である。

よって、新たな過疎対策法の制定を強く要望する。

以上、地方自治法第99条の規定により意見書を提出する。

令和元年9月19日

和歌山県日高郡日高川町議会



日高郡町議会親善 ゲートボール競技大会

10月7日にみやまドームで「第22回日高郡町議会親善ゲートボール競技大会」が開催されました。各町議会で2チームが編成し、12チームが参加して対戦しました。優勝は逃しましたが、他町の議員と親睦を深めることができ、大変有意義な時間でした。

令和元年も早や10月となり、1年経つのも早いものだと感じる今日この頃です。そして年末から正月を迎える準備に心しておくことも必要な時期です。私は、正月用のメ縄を作り、販売する裏技をもっています。この裏技で、小学校のメ縄教室や町文化祭に指導者として参加しています。メ縄作りは作業工程が多くてワラの確保・ワラはち・すぐどとり・ワラたたき・太さを決めるワラの軽量・ない上げ・はさみ仕上げ等々。後はメ飾りで仕上げます。家の玄関や神棚前に取り付ければ、心新たに一年の始まりです。家族の幸せや健康を願う方々のために、今年も頑張っております。

(井藤満人)

